

中期経営計画

2026年－2031年

Kumamoto Football Association

KFA



2002年4月、熊本県サッカー協会は「基本構想」を決定し、向かうべき目標と到達点を明らかにしました。その後、当協会の法人化、日本サッカー協会の「2005年宣言」、ロッソ熊本の誕生がありました。これまでの活動の成果と進展を踏まえ、大きな環境の変化にも的確に対応するため、2度改訂しました。更なる熊本のサッカー発展に積極的に取り組んで参ります。

1 基本理念（フィロソフィー）

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化の振興に寄与し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

2 基本目標（ビジョン）

「蹴夢」夢のあるあなたが主役の熊本サッカー ～全国で有数のサッカー王国を目指す

3 基本方針（バリュー）

- (1) 安心・安全なフィールドのもと、多様性のあるサッカーをつくり、はぐくみ、ピッチにあつまり、ともに、つながり、いつでも誰もがアクセスできる熊本サッカーを目指す
- (2) フィールドに楽しみがあふれ、感動を覚え、喜びを感じることができる熊本サッカーを目指す
- (3) 新たなステージで、九州・日本・世界へと羽ばたくサッカーヒューマンがより多く育つ
熊本サッカーを目指す

『蹴夢』 夢があるから強くなる。

サッカーを通して、まちの未来をつくる。
COSMOSを拠点に、人・まち・文化がつながる“熊本モデル”を築き、
「まちなかスタジアム構想」を未来への象徴として発展させる。
サッカーを通じて地域の誇りと活力を育み、
誰もが夢を持ち続けられる「全国有数の
サッカー王国・熊本」を実現する。



補足

『蹴夢（しゅうむ）』は、熊本県サッカー協会が長年掲げてきた理念であり、「夢があるから強くなる」という言葉は、熊本のサッカーに関わるすべての人の原動力となってきた。

本中期計画では、その精神を次の時代へと継承し、COSMOSから“まちなか”へと広がる地域共創の輪を通じて、サッカーが教育・福祉・防災・観光・経済と連動する新しい熊本の風景を描く。サッカーを軸に、地域が一体となって未来をつくる——それが熊本サッカーの新たな挑戦である。

要素

意図・効果

『蹴夢』を冒頭に配置

歴史的アイデンティティの継承を強調（理念と行動の橋渡し）

「サッカーを通してまちの未来をつくる」

行政・企業・住民にも共有可能な合言葉として定着しやすい

「COSMOS→まちなかスタジアム」

長期における具体的な方向を明示

「熊本モデル」

抽象的だが柔軟性があり、他地域への発信力を持つ

「夢」「誇り」「未来」

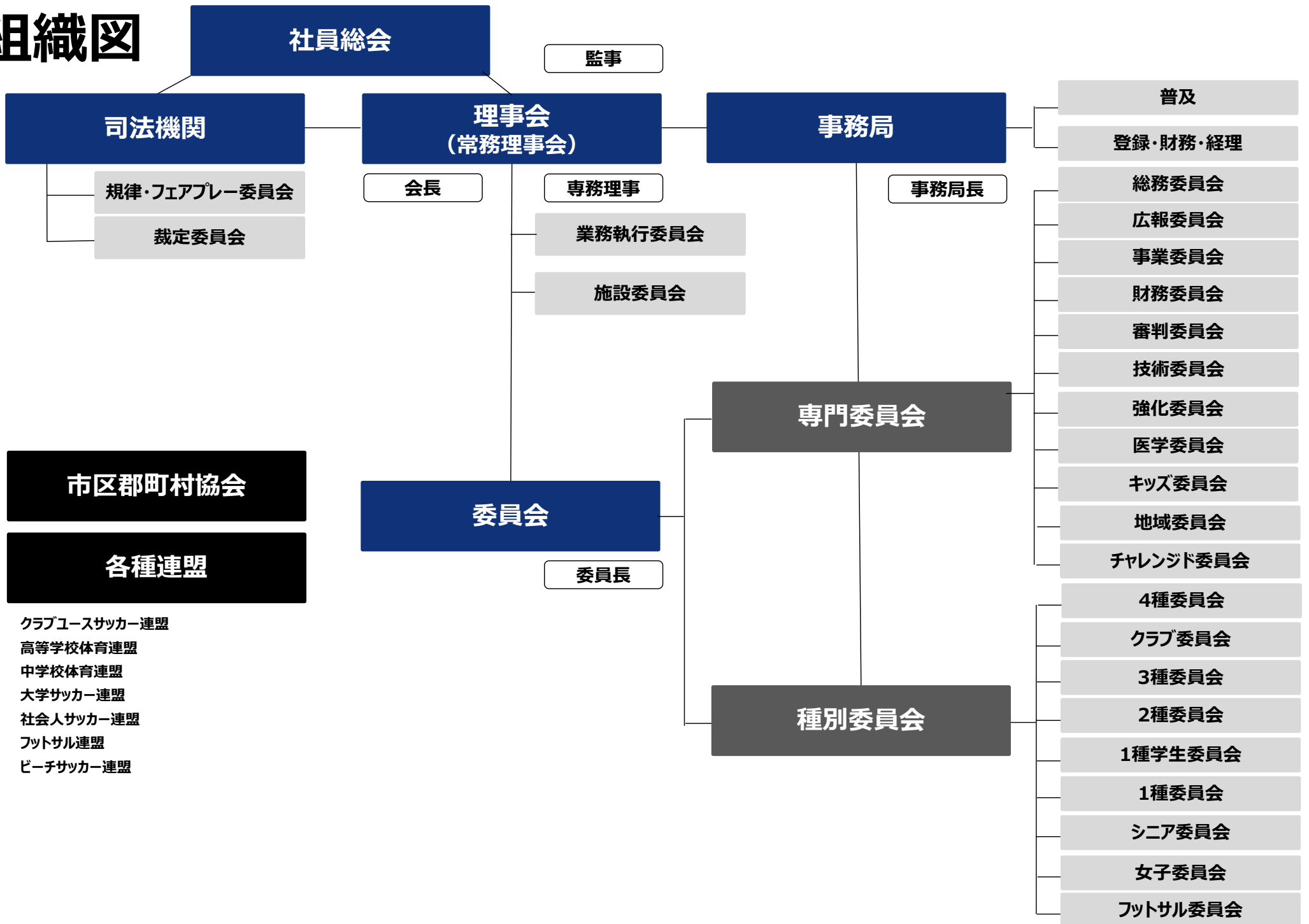
感情的訴求と組織内外の共感軸を両立

「熊本型フットボール共創モデル」の確立COSMOSを
拠点に、サッカーを通じて人・まち・文化がつながる。

「共創の場」を築き、普及・育成・強化・教育・地域
連携を一体化させた熊本モデルを確立する。

「蹴夢」 - 夢があるから強くなる - の理念を礎に、誰
もが誇れる「全国有数のサッカー王国・熊本」を実現
する。

組織図



重点目標体系 (5分野)

【第1分野】
COSMOS
拠点活用と
地域共創



【第2分野】
普及
育成
強化



【第3分野】
人材開発と
組織力強化



【第4分野】
登録・参加促進
(生涯スポーツ・女子・シニア)



【第5分野】
ガバナンス
財務



【第1分野】COSMOS・拠点活用と地域共創

方向性・重点方針

COSMOSの高稼働を維持しつつ、COSMOSを中心に、地域・学校・企業・行政・福祉が協働する「共創拠点」としての機能を高め、教育・防災・福祉・スポーツ振興を一体的に展開する。

目標

- ・地域に開かれた“共創型フィールド”の確立
- ・高稼働を維持しながら、質的価値（体験・交流・貢献）を拡充

主な事業

- 1.主催・共催・連携イベント
- 2.教育・防災・福祉・農業など分野横断の共創事業
- 3.福祉事業者連携による芝生管理・地域雇用創出
- 4.COSMOSブランド事業（広告・講座・レンタル等）による収益化

主なKPI（2024基準 → 2028 → 2031）

- ・年間来場者：234,000 → 235,000 → 240,000
- ・稼働率：64.2% → 65%維持
- ・イベント開催（主催・共催・連携）：5 → 8 → 10件
- ・共催事業（行政・学校・企業）：1 → 5 → 8件
- ・地域共創事業（福祉等）：3 → 10 → 15件
- ・収益事業件数：0 → 5 → 10件
- ・収益事業金額：0円 → 年200万円 → 年400万円
- ・利用者満足度：調査開始 → 90% → 92%

【第2分野】普及・育成・強化

方向性・重点方針

サッカーを通じて「続けられる仕組み」と「夢を持てる環境」を整備。
キッズからシニアまで、育成・指導・競技力を循環的に発展させる。

目標

- ・普及率・継続率の維持と向上
- ・MOCCOSフットボラー育成を軸とした技術・人間力の育成

主な事業

- ・巡回指導・キッズフェス・地域スクール
- ・トレセン活動の強化・ユース審判員育成
- ・FAコーチを中核に育成体制の確立

主なKPI（2024基準 → 2028 → 2031）

関係委員会と調整の後、決定予定

【第3分野】人材開発と組織力強化

方向性・重点方針

協会運営を支える多様な人材を計画的に育成するとともに、業務執行委員会を中心とした**組織運営・連携体制の強化**を図る。

持続可能な協会運営基盤を確立する。

特に、女性や若手の参画を広げ、組織に多様性と継続性をもたらす。

目標

- ・業務執行委員会・各種委員会・理事会の連携強化による迅速で透明な意思決定体制を整備。
- ・女性・若手・外部人材の登用を進め、多様性を活かした運営体制を形成。
- ・内部研修・ガバナンス研修を通じて、法令遵守・倫理意識の浸透を図る

主な事業

- ・組織マネジメント体制の強化
- ・人事登用制度の整備
- ・女性理事40%体制の実現
- ・連携体制、情報共有のDX化

主なKPI（2024基準 → 2028 → 2031）

女性理事比率 13%→30%→40%

【第4分野】登録・参加促進（生涯スポーツ・女子・シニア）

方向性・重点方針

人口減少期においても「生涯を通じてサッカーを楽しむ社会」を形成。
女子・シニアを重点ターゲットに、参加層の拡大と継続率向上を図る。

目標

- ・女子・シニア領域を重点成長分野に設定
- ・各登録者数を増

主な事業

- ・はじめての女子サッカー教室
- ・シニア大会（学校OB、OG大会）
- ・地域交流会の定期開催
- ・各年代間の移行支援（小→中→高→社会人）

主なKPI（2024基準 → 2028 → 2031）

関係委員会と調整の後、決定予定

【第5分野】ガバナンス・財務

方向性・重点方針

透明性と多様な財源確保を基軸に、協会経営の安定化を図る。
ガバナンス・会計・財務・コンプライアンスの質を高め、協会の公共性を確立する。

目標

- ・透明性・説明責任・法令遵守を徹底した運営体制を構築
- ・安定した財務基盤を確保し、収益と協賛の多層化を推進
- ・協会全体でのリスクマネジメント・内部統制の定着

主な事業

- ・会計監査・財務報告書の透明化
- ・新規パートナー企業
- ・助成金・協賛・広告収益のバランス型財源確立
- ・コンプライアンス教育・ハラスメント防止研修の実施

主なKPI（2024基準 → 2028 → 2031）

- ・外部評価・報告書公開（説明付き） 0→実施→実施
- ・パートナー企業 0→10→30社
- ・協賛収入

全体方針：縮小均衡を脱し、“投資型・拡大型”の財務へ転換する

これまでは

物価高、人件費高騰、大会増加による経費増により、赤字または事業縮小を余儀なくされてきた。

しかし、中期経営計画の重点目標これらは「縮小」では達成できない。

・**今後の財務の基本姿勢は“拡大への投資”** 2026年度は「基盤強化と制度設計の年」

収入戦略の見直し：3つの柱で財源を強化

(1) 登録料の見直し (2027年度実施)

➔ 登録料は“財務の柱”であり、2026年度の設計が中期計画の鍵となる

(2) 大会事業の“自立化”

基本原則：大会参加費 + 協賛金 = 大会の開催経費 (= 自立した事業として成立させる)

(3) 専門委員会事業は“中期経営計画に基づく配分方式”へ

「予算配分の原則」

① 中期計画の重点目標 × ② 指標 (KPI) × ③ 人材戦略 × ④ 事業効果

蹴
夢

